

新プロジェクトの趣旨に賛同され、さらなる環境保全活動に取り組む
一般社団法人日本釣用品工業会の島野容三会長にお話を伺いました。

**環境保全は
業界全体の願い**

皆さん釣りについてどう思われます？ 私は釣りは自然に触れながら楽しめる、とても奥の深いエキサイティングなレジャーというかスポーツの一つだと思います。しかし、これまでの経緯を考えると環境に負荷をかけてきたことも事実で、今日の持続可能な社会を目指すというコンセンサスを考えれば、業界としてもきちんと対応しなければなりません。この素晴らしい釣りを将来にわたリ続けるにはどうしたらいいのか？ その答えとして日本釣用品工業会が策定したのが、釣り環境を次世代に引き継ぐための「釣り環境ビジョン」で、これは2012年に日本釣用品工業会会員の総意で決まったものです。その後、具体的にどのような活動を行うべきか会員からアンケートをとり、13年から優先3事業として「釣りの場の清掃」「魚資源の放流」「釣りの場の開放」から始めることになりました。会員が将来の釣り環境を考えての方針です。



一般社団法人 日本釣用品工業会 会長
株式会社シマノ 代表取締役社長

島野容三氏
Yozo Shimano

■2015年度「釣り環境ビジョン助成」助成先一覧

- NPO法人アーキベラゴ(香川県)
- NPO法人浅間・吾妻エコツーリズム協会(群馬県)
- NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム(東京都)
- NPO法人いびがわミズみずエコステーション(岐阜県)
- 海守さぬき会(香川県)
- 社団法人JEAN(東京都)
- 誇れるふるさとネットワーク(鹿児島県)
- NPO法人ワールドオーシャンズデイ(東京都)

**活動原資と
これまでの取り組み**

業界としての具体的な取り組みですが、現在釣り関連製品のパッケージなどに「環境美化マーク」の表示を進めており、このマークが付いている製品の売り上げの一部が「釣り環境ビジョン」の活動原資となっています。つまり、釣りが、間接的になりますが、釣り環境の保全活動に参加していることになるわけです。もっと言えば、釣り人も会員メーカーもこれからは「釣り環境」の保全を当然のこととして意識することを目指しています。

**企業協働プロジェクト
への期待**

地球環境基金さんについては、失礼ながら、よく存じあげていま

です。これから、これまでの活動原資の全てが先ほど説明した「釣り環境ビジョン」の優先3事業に使われています。例えば「釣りの場の清掃」ですが、日本釣用品工業会はプロのダイバー、公益財団法人日本釣振興会はボランティアのダイバーの協力を得て、全国各地の釣り場で地域自治体などの協力の下、水中や陸上での清掃活動を進めています。あくまでも対象を絞った環境保全活動なのです。

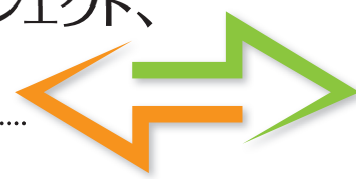
最後になりますが、「釣り環境ビジョン」の目指す未来について、釣りに関わる方々だけでなく、多くの皆さまにご理解を得て協力いただければと考えています。

新プロジェクトの趣旨に賛同され、さらなる環境保全活動に取り組む
一般社団法人日本釣用品工業会の島野容三会長にお話を伺いました。

壮大な釣りの未来をカタチにする

企業や団体の想いをカタチにする

寄付者の想いを確かなカタチに。
新プロジェクト、
始動!



地球環境基金企業協働プロジェクト

「釣り環境ビジョン助成」

地球環境基金は、本年度より新たな取り組みとして「地球環境基金企業協働プロジェクト」を導入し、その第1号として「釣り環境ビジョン助成」がスタートしました。

「釣り環境ビジョン助成」…清掃活動など水辺の環境保全活動に対し助成

「地球環境基金企業協働プロジェクト」の概要と目的

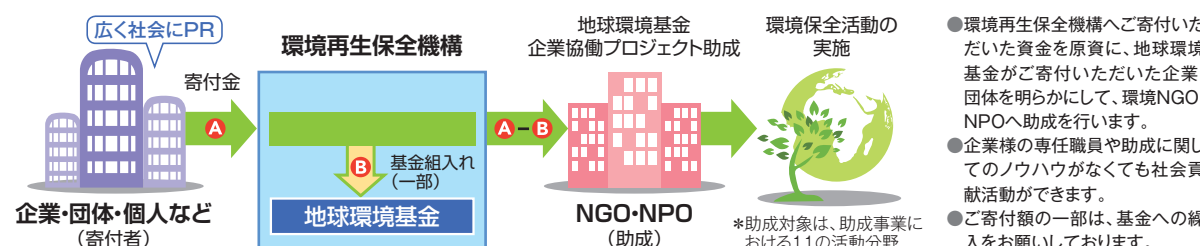
環境NGO・NPOに対する助成で20年を超える実績を持つ地球環境基金。これまでは、企業・団体などからの寄付は地球環境基金に組み入れられ、対象となる活動分野を限定せず幅広い助成を行ってきました。

一方、今年度から始まったのが、寄付者の社会貢献が目に見えるよう企業名などが明示でき、希望する活動分野に助成できる「地球環境基金企業協働プロジェクト」です。本プロジェクトでは、地球環境基金がこれまで培ってきたノウハウを生かし、寄付者である企業・団体に次のようなメリットをご提供します。

- 募集や審査など、地球環境基金の助成システムの利用
- 助成に伴う事務手続き
- 助成先の成果確認と報告書作成
- 寄付者と助成先の関係構築など

地球環境基金は、本プロジェクトの導入により、企業・団体などの皆さまの社会貢献活動が社会に広く認知され、より確かな成果をもたらすものとなるよう、お手伝いしたいと考えています。

■地球環境基金企業協働プロジェクトのしくみ



助成の現場.2

NPO法人
ワールドオーシャンズデイ

タツノオトシゴがすすめる
クリーンな海を目指して



参加者で描いたタツノオトシゴの人文字(片瀬海岸)



片瀬海岸でのゴミ拾いには、子どもから高齢者までが参加



地元高校生による小動岬南方でのアマモの植付け

助成の現場.1

NPO法人
いびがわミズみずエコステーション

総勢2500人による
揖斐川流域クリーン大作戦



グループで参加した中学生



ゴミ拾いをする親子連れと企業からの参加者



ゴミ拾い終了後に行われた小中学生によるアユの稚魚放流